

中野区教育委員会会議録

令和元年第6回臨時会

令和元年7月23日

中野区教育委員会

令和元年第6回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和元年7月23日（火曜日）

開会 午後6時00分

閉会 午後8時09分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 戸辺 眞

子ども・教育政策課長 永田 純一

指導室長 宮崎 宏明

中野区立小学校教科用図書選定調査委員会委員長 櫻井 茂

○書記

教育委員会係 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和2年度使用教科用図書の採択について（指導室長）

○議事経過

午後6時00分開会

入野教育長

こんばんは。

定足数に達しましたので、教育委員会第6回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りいたします。

本日の協議事項「令和2年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、「中野区立学校教科用図書の採択に関する規則」第10条第1項に基づき、非公開の取り扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書により、非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

(以下、非公開)

(令和元年第22回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

入野教育長

それでは、日程に入ります。

協議事項「令和2年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

初めに、本件協議に当たりまして、事務局から教科書採択に係るこれまでの経過について、ご報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、お手元の資料「令和2年度使用中野区立小学校教科用図書の採択について」をご説明いたします。

まず制度の概要でございますが、そこに記載しましたように、文部科学大臣の検定を経たもの、または文部科学省が著作の名義を有するものの中から種目ごとに一種の教科書を採択するものでございます。今回は11教科13種目、出版社は15、計299冊が採択の対象

となつてございます。

次に、教育委員会における採択に関する一連の流れについて確認の意味も含め、ご報告をいたします。

4月26日の第13回定例会において、教科用図書の採択基準を決定していただきました。さらに調査研究項目、それから区立小学校児童・保護者・区民からの意見の聴取の方法についてもご決定いただきました。また5月15日の第14回定例会においては、選定調査委員会の委員の決定、学識経験者3名、校長・副校長3名、教諭3名、保護者3名、公募区民3名の方に委員をお願いいたしました。その後、選定調査委員会において、計5回にわたって教科書の調査研究を実施いたしました。詳細につきましては、この後、選定調査委員会委員長よりご報告いただく予定でございます。

それから2の(3)についてでございます。保護者・区民の意見の聴取ということで、教科書、展示会の状況、保護者・区民の意見についてご報告いたします。教科書選定での法定展示、それから特別展示を6月4日から6月27日までの24日間教育センターにて実施いたしました。巡回展示につきましては、5月24日から7月5日まで、野方図書館、南部すこやか福祉センター、中央図書館でそれぞれ行いました。会場には意見箱を設置いたしまして、保護者・区民の意見を聴取いたしました。この意見の内容につきましては、後ほど、ご報告をさせていただきます。

またそのほか学校意見の聴取ということでは、5月22日から6月20日まで全22校で教科書巡回をさせていただきます。学校ごとにすべての教科書について調査研究を実施いたしました。その他、児童意見ということで、資料にございます5校を選定いたしまして、それぞれ異なる学年の学級で実施いたしました。

以上、これまでの教科用図書採択にかかわる経緯について、ご報告させていただきました。

入野教育長

続きまして、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会の報告を行っていただくため、同委員会委員長櫻井茂さんに会議への出席を求めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会委員長櫻井茂さん

に会議にご出席いただくことといたします。

(櫻井委員長 入室)

それでは、櫻井委員長ご着席ください。選定調査委員会の調査報告を、早速でございますがお願いいたします。

櫻井委員長

選定調査委員会委員長を拝命いたしました、聖徳大学の櫻井茂と申します。よろしくお願い申し上げます。

ただいまから選定調査委員会の報告をさせていただきますが、正確を期すために、報告書を読む形でのご報告とさせていただきますので、ご寛容ください。

それでは始めます。

初めに、教科用図書選定調査委員会ですが、学識経験者3名、区立小学校の校長先生と副校長先生3名、区立小学校の教員3名、区立小学校に在籍する児童の保護者3名、区民の方3名の計15名から構成されております。

選定調査委員会は、本年5月17日に設置されました。第1回の会合を5月21日に開会し、その後、6月24日、7月1日、7月8日、7月11日の都合5回の委員会において、全ての教科書についての調査をいたしました。なお、調査をするに当たり、中野区における教科書採択の基準に沿って進めてまいりました。

それでは、これから選定調査委員会の活動について、ご報告させていただきます。

5月21日の第1回委員会では、今後の方針等が示された後、選定調査委員は採択に関する規則、要綱、採択基準と中野区教育委員会の教育目標、指導目標、小学校の学習指導要領などの資料をいただきました。その後、約1カ月間各委員は、教科書展示会場等で教科書を読み込み、6月24日の第2回委員会以降、調査研究会報告、学校意見、児童意見、都調査研究資料などもふまえ、それぞれ2時間程度の中で、国語から道徳までの各教科の教科書について、おのおの忌憚なくそれぞれの立場から意見交換を行ってまいりました。なお委員会では委員全員に発言してもらうことを基本としましたので、教科書の種目ごとに各委員必ず1回は発言されたことを申し添えておきます。

まず委員会で発言された意見のおおよそについて、ご紹介いたします。現職の教員からは、この教科書を使うのならどのような指導ができるのか、また、どのような授業が可能になるのかなどの視点から意見が述べられました。保護者からは、子どもの興味を引き出すことができるのか。また、教科書の大きさや厚さについて、収納や持ち運びに不都合

がないか、使いやすいかなどといった視点から意見が述べられました。また区民からは、自分がもし小学校の児童だったら、どのような教科書を選んでいるだろうかなどの視点から意見が述べられました。そのような中で、グローバル化や人口知能、AIの飛躍的な進化を見据えた学習指導要領改訂の大きな柱にもなっている主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメント、幼児教育との接続であるスタートカリキュラムやプログラミング教育などが教科書にどのように扱われ、それをどのように学校で実践していくことができるかなどの視点からも多くの意見が出されました。

それでは、具体的な内容について申し上げたいと存じますが時間も限られておりますので、今回の小学校学習指導要領から教科となった外国語について、報告させていただきます。外国語として種目英語の教科書は、7社から出版されています。英語の教科書については、各社とも場面を設定した活動が多く取り上げられています。その中で英語の歌を取り上げており、学習にスムーズに入れてよいのではないかという意見がある一方、高学年になると歌は飽きてしまうのではないかという意見がありました。

また今回は聞く・話すだけではなく、読む・書くの4技能、5領域を学習することになっています。そこで教科書に書き込んだり、付録のカードを利用したりすることについても意見が出されました。教科書に書き込む欄が多いと、児童が記入したことを授業の限られた時間の中で教員が評価するのは大変ではないかという意見が出た一方、平仮名や片仮名と違い、不慣れな英語を書くため、授業中に書き込みをさせて、スペル等をその都度確認した方が指導しやすいという意見も出ました。さらに巻末付録のカードについて、1枚1枚に名前の記入欄があるのは、子どもが書くのは大変だという意見がありましたが、ローマ字の練習になるという意見も出されました。このカードにミシン目がついていると切り取りが簡単で済むという意見や、別冊になっている辞書的な資料がついているのは効果的ではないかという意見もありました。

小学校の英語の授業は、3・4年の外国語活動から発展し、そして中学校の英語科の授業へと学習が継続していきます。児童が興味や関心をもって主体的・対話的に学び、その学びが深まっていく教科書が採択されることを願っております。

雑駁ではございますが、以上で選定調査委員会における報告とさせていただきます。

その他の教科につきましては、大変恐縮ではございますが、お手元でございます教科用図書選定委員会報告書に記載させていただいておりますので、後ほどご覧いただければと

思います。本日の報告及び資料が、これからの教育委員会における教科書採択の協議を進めるに当たり、役立つことを願っております。

これで報告を終わります。ありがとうございました。

入野教育長

櫻井委員長、ありがとうございました。

ここで会議を休憩いたします。

午後6時16分休憩

午後6時16分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

続きまして、事務局から中野区立小学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の研究結果の報告と、中野区立学校教科用図書の採択に関する要綱第2条に基づく、学校、児童、保護者及び区民からの意見についての報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、最初に資料のご確認でございます。

本日の資料は、皆様のご机上のフラットファイルにとじてございます。アイボリーのものでございます。この中に調査研究会の報告書、これは詳細版と概要版がございます。詳細版として縦版のものが1社ずつとじており、概要版が最後にとじている横版になっているものでございます。その後、学校意見を集約したもの、それから保護者・区民からの意見を集約したもの、最後に教科書採択に関する要望書ということで、それぞれタグがついてございます。また、そこをご覧いただければと思います。よろしいでしょうか。

それではまず、調査研究会の報告をいたします。

選定調査委員会の下部組織に当たるものでございます。4月26日に教育委員会でご決定いただきました調査研究項目に基づきまして、詳細な研究をしております。この研究会でございますけれども、校長を委員長とした小学校教育研究会等で研究をしている教員が委員となっております。

まず資料のご説明でございますが、縦版のもので1社ごとに詳細なご報告をしております。最後の横版のところは、総合所見として一覧になったものがございますので、それぞれご覧いただきたいと思っております。

続きまして、学校意見のご報告でございます。経過報告でもお伝えいたしましたけれど

も、学校には各学校での教科書巡回の機会、それから図書館等での巡回教科書展示会や教育センターでの展示会を活用していただきまして、全ての教科書について調査研究項目に基づく研究を実施して、報告書を作成・提出していただきました。全校分集約したものがお手元の資料でございます。

その次が児童の意見でございます。児童意見につきましては、2年生から6年生までの意見を学年ごとに集約しております。子どもの視点で、子どもたちはこういうところを教科書に期待しているということがお読み取りいただけるかなと思います。

最後に、区民・保護者の意見です。上の段が法定及び特別展示会における区民・保護者の意見でございます。さらに下の方が巡回教科書展示会ということで、野方・中央両図書館及び南部すこやか福祉センターに置かれていた教科書を見て、子どもたちにとってどのような教科書がよいか、教育委員会に望むこと、その他ということで、意見が出されております。意見の総数は35件、教育センターにおける法定及び特別展示会にて10件、南部すこやかセンター及び図書館における巡回展示会にて25件ございました。これはいただいた意見を誤字脱字のみ修正した形でそのまま列挙してございます。

詳細についてはお読み取りいただければと思います。

調査研究委員会、学校、児童、保護者、区民の意見の報告は以上でございます。

入野教育長

ただいまの各報告につきまして、質疑がありましたらお願いいたします。

質問がないようでしたら、以上で報告を終了したいと思います。

櫻井委員長、本日はご出席ありがとうございました。

(櫻井委員長 退室)

それでは、続きまして、教育委員会、教育委員宛ての要望書などがございましたらご報告願います。

指導室長

それでは、本日までに3件の要望書が届いております。資料の要望書のタグのところをご覧いただきたいと思います。3月22日付で日本出版労働組合連合会より、6月18日付で新日本婦人の会中野支部より、7月10日付で板橋区民の方1名より要望書をいただいております。

内容等は後ほど、ご覧いただきたいと思います。

以上でございます。

入野教育長

よろしいでしょうか。それでは、ここで本件協議の進め方についてお諮りいたします。

本件協議に当たっては、原則として選定調査委員会の調査報告を踏まえ、教科種目の教科書ごとに協議を行いたいと思います。その際、まず各委員から順にご意見を伺います。ご意見を伺う順番は、教育長の私から順に指名させていただきます。その後、協議を行い、採択候補とする教科書を決定いたします。その後、令和2年度使用中学校教科用図書について協議し、最後に特別支援学級で使用する教科書について協議し、採択候補とする教科書を決定したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、そのように協議を進めることに決定しました。

それでは、ここで会議を休憩いたします。

午後6時25分休憩

午後6時26分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

それでは、国語について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

私の方からまず国語の教科書について、意見を述べさせていただきたいと思います。

非常に4社ともにできばえはよくて、甲乙つけがたいような形でありました。その中でも私自身で見ているところに関して、いろいろと着眼点をつけていたのですけれども、まず使用上の便宜として特徴的でありましたのが、通常4年生まで2冊分冊でされていたものが、中学校への接続を考慮したということで、5年生、6年生の教科書が1冊になっている部分が東京書籍と光村図書の2社でありました。ここは少し、この中でも着眼した点であります。

また、単元についての項目数が教育出版は非常に多いということがあったので、その中で平均的に活動についてどうなのかなということは、疑問に思いましたけれども、あまり参考にはならなかったです。

いろいろと、甲乙つけがたかったのですけれども、やはり光村図書が単元ごとに開いた

ページで、めあてや既存の学習内容がわかりやすく書いてあるという点と、段落要旨、要約などの用語についての丁寧な説明がある点が非常によかったです。また、内容的には、学習の進め方が非常に丁寧に書かれているように思います。漢字がページの左側にまとまっていて、非常にわかりやすいのではないかなということ、そういったところもよかったですのではないかと私は感じまして、どれとどれと迷ったわけではないのですけれども、やはり使いやすさとか見やすさなんかも今までなじんだ形がありまして、光村図書が私自身は推薦できるのではないかと考えました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

国語ですけれども、私は小学校以降、中学や高校で教科書をしっかり読み取れない子が少なくないということなどもよく聞く中で、やはり小学校の間にきちんと国語で正確に内容を理解するという点が大切かなと考えました。それぞれに特徴がある教科書ではあったのですけれども、光村図書と教育出版がその中でも読むことに力を入れた編集になっているのではないかと感じました。

教育出版はその中でも読んだことをまとめて発表するということに、いろいろな工夫を教科書の中で感じましたし、言葉の力という意味でもまとまりがあったのかなと感じました。

私は光村図書の方がよりよいと思ったのですけれども、聞きたいことを考えて質問しようなど、学習活動の指示が具体的で児童にとって学びやすいのではないかと感じました。同じような視点でやはり光村図書は、大事なことを考えて案内の手紙を書こう、聞きたいことを考えて質問しよう、聞き取りメモを工夫しようなど、こういった点で読む力を育成できるという意味で、光村図書が中野区ではいいのかなと感じたところです。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

私がこの4社の中で着眼したのは、教育出版と光村図書の2社であります。これまでのお二方の委員のご意見と共通する部分がありますが、一口に言うと光村図書は全体的なバランスがいいということ。教師にとってより教えやすい、指導しやすい教科書に回を重ねるごとにかなり編集されていると感じました。

一方、教育出版はどちらかというと、学びやすいというか考えさせるとか、今の授業の流れを意識したものになっているかなと思います。中身というよりも使用上の便宜について、特に高学年では分冊となっていますが、光村図書の場合、5、6年生は前々回の採択から1冊になっています。このあたりが実際ランドセルに入れたときにどうなのかなというのは、意見の分かれるところだと思いますが、これはやはり中身を優先した方がいいのかなと思いました。

それから1年生のスタートカリキュラムとの関連というところで、それぞれ各社かなり工夫をしていると思いますが、この中でもそれぞれが会社の特徴を出していて、これも一長一短なのですが、総合的にバランスよくしっかりと仕上がっているというのが、光村図書かなという状況だと判断いたしました。学校の意見も総じてそのような支持をする流れも強く感じ取ることができましたので、一応、光村図書の方向性で考えていいと感じます。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

各社特徴がございまして大変迷う部分もあったのですが、私も東京書籍と光村図書に注目をしました。

特に入門期のところというのも大事かなと思ったのですが、東京書籍の魅力は、最初の始まりが「とんとんとん はじめるよ」という、言語感覚というか、言葉のおもしろさですとか、子どもにとってワクワクするようなところ、あと言葉による見方、考え方というところでの、今のリズムも含めたメタ認知的なところが重視されている部分もあるのかなと思ひまして注目をしたのですが、ただ光村図書の方は書くことというところで、1年生の入門期に書くことをしっかりして、そしてその後もずっと継続的に書くということにも重点が置かれていまして、そういった点でいろいろな学びの基礎になる書くこと、読

むことについて、しっかり学べるのではないかなと思いました。そして、やはり光村図書独特かなと思うのですけれども、挿絵も含めて非常に美しいというか、日本の文字とさまざまな情感をととてもよく伝えるような構成になっておりまして、そういった点が大変魅力的だと思いましたので、光村図書がよいのではないかなと考えました。

以上です。

入野教育長

最後に私の意見を申し上げさせていただきます。

各社とも非常に特徴があるなと思いました。それから区民の意見の中に、色の見分けが苦手な子どもにも優しい教科書を望むというご意見があったのですが、見てみますと各社それぞれユニバーサルデザインの書体を利用したり、カラーバリアフリーを考えていたり、特別支援教育の専門家も監修をなさっていたりということで、どの教科書もそういう面では今回、非常にいい教科書ではないかなと思われました。

私は大きく2点から見てみました。一つは次の学習指導要領、新しい学習指導要領についての視点ということで、6年間の教材のバランスということを見てみましたところ、話すこと・聞くことに関する単元においては、教育出版と学校図書が非常に多かったかなと思います。書くことの教材といえますか、単元数からいうと、教育出版、光村図書、東京書籍、それから読むことの単元数でいくと、学校図書、光村図書、教育出版なんかが、東京都の調査研究資料等から見てみても多いようではありますが、比較的バランスがいいなと感じましたのは、光村図書と東京書籍だなと思います。

特に、書くことは非常に最近重視されておりますので、書くことが多かった教育出版、光村図書、東京書籍を見てみましたところ、下学年の方に書くことの単元数が多いのは光村図書と東京書籍でありました。私としましては、下学年に重点を置いているのはいいと思いました。

そして、さらに選定調査委員会の報告もありましたように、対話しながら学習を進めている、これからの主体的・対話的な学びという部分では、光村図書、東京書籍が抜きん出ているとあります。特に、光村図書に関しましては、言語活動の中でも少人数での話し合いですとか、学級全体での話し合い活動に重点が置かれているように思いますので、ちょっと抜きん出ているかなと思います。

それから、これからの社会を生きるという意味では、情報化への対応の単元ですとか、国際化に対応する単元ですとか、QRコードの使いやすさですとかということを見ていき

ますと、どの社もこの三つについてはそれぞれの取組をしております。情報化への対応の単元ということになりますと、東京書籍と光村図書が多かったかなと思います。単元数としては光村図書が一番ウエートを置かれているかなと思います。プログラミングという言葉も使っていたので、これからの社会を生きるという意味でも、いいかなと思いました。QRコードの方から見ましても、選定調査委員会の報告でも、そのことについて書かれておりましたけれども、やはり一番充実していたのは光村図書なのかなというような思いを持ちましたので、私も最終的には光村図書がいいのではないかなと思っております。

以上です。

ほかに各委員からご発言ございますでしょうか。

全体的に光村図書という意見が強くなりましたので、国語につきましては、光村図書を採択候補とすることに決定したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、国語については光村図書を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、書写について協議をいたします。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は書写につきましては、新しい学習指導要領解説編国語にありますように、文字や文字の集まりの書き方を基礎として筆記具を選択し、効果的に使用するなどの目的や状況に応じた書き方という、こういった点から書写の教科書を見させていただきました。その中では東京書籍と光村図書が優れているように感じました。

光村図書は鉛筆の持ち方など、器具の使い方が非常に具体的で、児童が学びやすいのではないかなと感じました。それからもう一つ、学習の流れとしてまず書いてみて、それから教科書と照らし合わせるなど、そういった主体的な学びを重視したつくりになっている点も、適当ではないかというふうに感じました。東京書籍も全体的にバランスがよく、発達段階に合わせて系統的にまとまっていると調査研究報告の中にもありましたけれども、私も同様に感じました。ただ、一般に頻度が高い横書きの指導がやや少ないという点は少し残念に思いました。そういった意味で、光村図書を第一に推したいなと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

特に選定のポイントの中で、私は基礎・基本の習得というところに特に着眼しております。

今の社会の中で、やはりキーボードやタッチパネルとかタッチペンとか、そういうことは非常に生活の中にも幼児期から浸透してきている実態があると思いますが、そういう中で鉛筆等を持って正しくしっかりと書けるということは、書写の使命として大きいのではないかなと考えました。

そういう中で見てみますと、鉛筆の持ち方などにもしっかりと適切な構成がされているのが東京書籍、光村図書、日本文教出版、この三つの会社ではないかと思ったところがあります。

特に横書きとか、そういうものにも対応するという状況を見ますと、日本文教出版のものが非常にわかりやすく書かれていると。それから全体の紙面構成というか、学ぼうとする意欲がもてるような構成という点では、他の会社よりも日本文教出版が一步リードしているように思いました。

あとは水筆で書くシートが入っている会社がありますが、その使い勝手も日本文教出版が、実際に使うとすれば一番扱いやすいような工夫がされていました。このような点からも、私が挙げた光村図書、東京書籍もいいとは思いますが、総合的に見ると日本文教出版のものが優れていると考えたところがあります。

入野教育長

ありがとうございました。

次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

まず最初に注目したのは、1年生のお子さんが文字をうまく書けるようになる、書くことが楽しくなるということを考えました。各社導入のところを工夫されているのですが、子どもの立場に立つとちょっとわかりにくいのではないかと思うものが、さまざまにございまして、その中では光村図書の書写体操というの、少し体をほぐして全身で書くみたいなこととおもしろいと思いましたし、あと幾つかの会社に取り上げている鉛

筆で点と点を結んで、いろいろな角度の線を書いてみるというところも重要ではないかなというふうに思いました。

ただ、丁寧に見てみますと、同じ線を書いてみようということでありまして、日本文教出版のものは日本の文字に独特な、横に平べったい楕円、「よ」とか「ま」とかに出てくるようなそういった楕円ですとか、子どもたちがちょっと日常的にこれまで接してこなかったような動きが入っているものについても、丁寧に何度も練習ができるようになっていたり、やはり文字ということについてとても理解が深いと感じましたので、日本文教出版がよろしいかと思いました。

また日本文教出版につきましては、高学年を見ましても手紙の書き方ですとか、エアメールも含めてさまざまな文字の応用というふうなことについても丁寧に書かれていますし、高学年になって手書きの文字をどんなところに生かしていくかということについても、学びやすいのではないかなと思いました。もちろん毛筆についての説明も丁寧であると思えました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

書写については各委員からのお話とかなり重複するところが多いのですが、私の意見も述べさせていただきます。

まず最初に1年生がものを字に表して書くということに関して注目するというので、1ページ目の見開きの中では、学校図書、教育出版と日本文教出版は、学校生活の中から選んでいくような形、そして東京書籍は目次を兼ねたような形で、それぞれの会社で工夫がなされていて、これらの中でどれがいいのかなという形はなかったのですが、光村図書だけが自分の名前を書くことから始まっているというのはかなり特徴的で、少し興味がわいたところではありました。

それと書き方ということで、持ち方ということに関しては、東京書籍は左ききの児童の書き方を掲載しているというのは、やはり特筆すべきことと考えます。多くはないのですが、左ききを右ききに直すのかとか、そういった意見もいろいろとあった中、こうやって左ききの方の鉛筆の持ち方というのも書かれているのはよかったのではないかなと

思っております。

また今回、付録と言っではいけないと思うのですけれども、水筆用のシートのことなのですけれども、これについては学校図書にはそれが無いという状況でした。東京書籍などそれぞれ会社ごとに大きさが違っているのですが、大きさとしっかり度から考えると、グレーで非常にわかりやすいところが日本文教出版社だったのではないかなと思います。

内容的にはそれぞれの学習のめあてとか進め方が、東京書籍と日本文教出版が一番丁寧で、非常に学習のねらいを達成しやすいように構成されているのではないかなと感じました。そしてその中で、実際に自分たちが実生活の中で使うような手紙や観察カード、連絡帳とか、そういったものについて見ると、ほとんど多くの場合はしっかりあるのですけれども、学校図書と光村図書はそういった部分が、参考にすべきものがやや少なかったです。それとやはり国際化社会ということで、日本文教出版はエアメールの書き方を、伊藤委員もおっしゃっていましたが、掲載してあったのも非常によかったのではないのでしょうか。

そして、本来最初に言わなければいけないのですけれども、国語のときは全部同じ大きさの教科書だったのですが、書写の場合は東京書籍だけがやや大きいサイズを使っている。これを教室の机に置いてそれを見て使うときに、この大きさがどうなのかなということも私としては気になったところであります。

以上のことから東京書籍と日本文教出版の間で非常に迷ったのですが、東京書籍は見開きの左手側に手本が統一されているところは非常によかったのですけれども、やはり見開きで学習内容全体を見渡せるような日本文教出版の内容の方が若干優れている。そして教科書の大きさも、手本として置くのならちょっと小さ目の方がいいかなということです。

また、巻末に漢字の資料が付いているというのも、日本文教出版が特徴的でよかった点ではないかなということで、非常に迷ったのですけれども、私としては日本文教出版を第一に推したい、東京書籍もちょっと捨てがたいかなということで、日本文教出版を最初に、二番目に東京書籍を推薦したいと思います。

入野教育長

ありがとうございました。それでは、最後に私の意見を申し上げます。

私も三つぐらいの視点から教科書を比べてみました。一つは先ほど来ご意見に出ている学習の流れが、どれが子どもたちにとっていいかなということで見てきましたが、調査研究報告資料にもありましたように、日本文教出版の「考えて・確かめて・生かして・振り

返る」という学習の流れが、試し書きをして、課題を見つけて、めあてを持つという流れで、非常に指導しやすいのではないかなという印象を持ちました。

さらに学習のあとで振り返ることの大切さをこのところとても大事にした授業を、学校現場では展開しておりますけれども、振り返りや最後に自己評価があるとかということにおいて、そういう部分がかかれていた東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版はいいかなと思えました。日本文教出版については、振り返りの中に相互評価も多少入ってるところがあって、いいかなと思います。学習の流れ的にも見通しを持って学習をして、その学習を振り返って、その振り返ったことをまた次の学習につなげていくという意味での、主体的な学びには、非常にいいかなという印象を持ちました。

二つ目は、他教科との学習とか、先ほど来、他の委員からお話があった日常生活につながる学びという点で見えていくと、学校図書や教育出版や光村図書や日本文教出版では、算数の横書きのノートの書き方が出ているのもいいかなと思えました。日本文教出版はさらに低学年で絵日記の書き方が出ているのも、これもいいかなと思えました。

社会的にいけますと、都道府県名が学校図書は非常に見やすい県名の書き方というか、お手本が出ているなどと思えましたし、調査研究資料の中から出てきている付録の充実から見えていくと、日本文教出版と光村図書かなと思います。

最後に東京都の資料からも見てみましたが、日本文教出版は点画の書き方を取り上げている項目数が、東京書籍と並んで非常に多いということとか、文字の組み立てとか、文字の形についての指導の部分に重点が置かれていることとか、行書などの発展的な内容も確かめてみたら、日本文教出版と教育出版が多いということで、私も日本文教出版と光村図書、東京書籍がいいかなと思いましたが、最終的には日本文教出版がいいのではないかなと思っております。

以上です。

ほかに各委員からご発言ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようですので、日本文教出版と東京書籍、光村図書が挙がりましたが、多いご意見ということになりますと、日本文教出版という形でまとめてよろしいでしょうか。

それでは、日本文教出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、書写につきましては日本文教出版を採択候補とすることに決

定いたしました。ありがとうございました。

それでは、次にこれから協議を行う社会及び地図についてでございますが、社会及び地図の教科書について、著作に直接かかわったわけではございませんが、教育長就任前に私が協力したものがございますので、教科書採択の公平性を自分なりに考えたときに、教育委員として採択協議にかかわることは適切でないと判断いたします。

つきましては、社会及び地図の教科書につきましては、協議する場から退席したいと思いますのですが、いかがでございましょうか。

渡邊委員

ご本人の申し出により、退席されることはやむを得ないと考えます。

入野教育長

それでは、私はここで退席をいたします。

退出後の教育委員会会議の進行は、教育長職務代理者の渡邊委員が引き続き、会議を主宰いたします。

それでは、渡邊委員に会議の進行を引き継ぎます。

(入野教育長 退室)

渡邊委員

教育長職務代理者の渡邊です。ただいま教育長が退室されましたので、職務代理者として会議の進行を行います。よろしく願いいたします。

それでは、社会について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず小林委員、お願いいたします。

小林委員

社会については、3社ということでございますので、正直なところそれぞれによさがあると認識をしておりますが、本会議の趣旨を踏まえると、私が重視したいいくつかの視点に絞ってお話をしなければならないと思っております。

まず、東京都の教育委員会がつくった資料並びに本区でつくった資料、その他さまざまなことを見ていきますと、全体的に扱っている内容ということを考えますと、東京書籍は非常にバランスがいいということ、それから日本文教出版は内容的に社会科に興味や関心が示せるような工夫をしているなという印象を持ったところであります。

いくつかの視点がありますので、一概には決め手になるかどうかということもあります。例えば扱っている人物、これは歴史の内容でございますけれども、学習指導要領では

42名の歴史上の人物を最低学習するという事になっています。ただこれはぴったりというわけではなく、それぞれの会社の判断でそれ以上の者が挙がっているということですが、改めて調査結果を見ますと、古代・中世・近世・近代と、バランスよく配置しているのは東京書籍でした。東京書籍はいわゆる近現代について、ほかと比べるとやや少ないのかなという印象がありますが、これは人物の人数だけですので、多く挙がっているからそれが全ていいとは限りません。そういう点では比較的現代に絞ってみると、現代に近い人物を多く取り上げているのが、日本文教出版という状況になろうかと思えます。

どちらかという教育出版は全体的に取り上げている人数が多くて、これでは学習の面では、逆に負担になってしまう可能性もあるのかなと考えました。それから、来年に迫っているオリンピック・パラリンピックにかかわる扱いということで改めて見ますと、これは日本文教出版のものがしっかりとした内容を多く扱っているということもあります。これは教育出版も同じことが言えると思うのですが、扱っている数としてはどちらかという項目数だけで見れば東京書籍が少し少ないという状況があろうかと思えます。

一方、装丁なのですが、これは東京書籍が6年生を分冊にしているという特徴があります。これについては改めて見てみると、今回の学習指導要領で歴史と政治、それから国際社会と分けてしっかりと学習していくということで、あえて新しい学習指導要領の趣旨に沿ってこのように分けているということ、プラス重さへの対応ということもあるのかもしれませんが、現代の一つの課題というか、新しい学習指導要領に沿った形での分冊、これも考え方がいろいろあろうかと思えます。

それから中の写真の扱いなのですが、これはもしかしたら好みというか見方もあろうかと思うのですが、一番わかりやすいのは、日本文教出版のものが非常にわかりやすく、丁寧に配置されているというか、掲載されているという印象がございました。

しかしながら学習を進めていく上では、東京書籍の今の教育課題である主体的で対話的な深い学びを進めていくには、さまざまな工夫が要所に見られますので、非常に3社とも魅力的な内容ではありますが、そういう点では、日本文教出版と東京書籍のいずれかでという考えを持っているところであります。

以上です。

渡邊委員

ありがとうございました。

次に伊藤委員、よろしく願いいたします。

伊藤委員

国語については比較的基礎・基本ということで、低学年のところを重点的に見させていただいた部分があったのですが、社会科につきましては、今回の学習指導要領の大きな柱である対話的で深い学びということで、主体的に多角的に考えたり、意味を見出して、人と共有して問題解決につなげていったりするということが、実際の歴史や身近な社会の動きを捉える際に、養いたい力として重要と思って教科書を見ました。

そういう観点からいきますと、今回のそういった対話的な学びということがあるので、各社とも発問というのでしょうか、子どもたちに投げかけるように、これはどうしてだろうとか、どんなふうになっていたのだろうかという、子どもたちの興味を喚起するような言葉かけが教科書内のキャラクターとともに出てくるといえることがあるのですけれども、その内容を比較いたしますと、例えば日本文教出版の方では、比較的丁寧な言葉で語りかけていて、特徴としては、それに対してキャラクターが答えているという、こうこうこうだったのではないかなとか、こんなふうに思ったとか、こんなことも疑問に思うみたいな、答えの例のようなことが比較的丁寧に書かれているのですね。それに対して東京書籍などは、そういった感想という形のものはないのですが、その分発問がとても丁寧で、抽象的なレベルのどうしてそうなったのだろうかというところから、もっと具体的に、どんなふうにその人が考えていたのだろうかとか、そのときの暮らしと現在を比べみようなど、非常に問いがよくできています。どういう経路でそこまで行ったのだろうかとか、そのときの暮らし、この場所は今こうなっているけれども、どうしてだろうというような、本当に現在の自分と比較して、また感情移入して、当時の人の暮らしを理解したり、なぜだろうということを中心に考えるような発問というのが非常によくできているなというふうに思いました。

そういう意味で小学校の社会科においては、単に事実を事実として学ぶというだけでなく、そういった主体的にどうしてそうなったのだろうか、そのことがまたどういう結果になったのかというような問題解決につながるような見方を学ぶことが重要かと思っておりますので、この発問は非常に優れているということで、東京書籍がとてもよいのではないかと思います。

デザイン等々につきましては、各社とも工夫がされていてどれも美しかったのですが、特にそういった発問ということにつきましては、新しい学習指導要領にのっとった学びが、東京書籍が一番しやすいのではないかと思います。

以上です。

渡邊委員

ありがとうございました。

続きまして田中委員、よろしくお願いいたします。

田中委員

社会はこの3社でそれぞれに特徴があって、おもしろいなと感じたところですが、選定調査委員会の資料や区民の意見の中に、最近の子どもたちは写真とかイラストを見ていろいろな興味を持つという、そういったところにも気を付けた教科書を選んでほしいというようなことがありましたけれども、教育出版が写真とイラストのバランスが比較的よくて、児童が見やすく編集されているのではないかなと私は感じました。

特に教科書の最初の方に、「つかむ、まとめる、つなげる」という学習段階を見通せるような工夫がされているところも非常によかったのかなと感じました。

また、それをモデル図や社会科の見方という形で冒頭に出していることで、児童が理解しやすいような構成になっているのかなと感じました。

もう1点、領土問題なども3社それぞれに丁寧に取り上げていますけれども、教育出版が中では丁寧な記述がされているのではないかと感じました。ということで、私は3社の中では、教育出版がよいと感じたところです。

以上です。

渡邊委員

田中委員、ありがとうございました。

最後に私の意見を申し上げます。

社会につきましては、まず内容からということで、知識や思考力、判断力、表現力、関連を考察する力、解決に向けて構想する力というのが、今回学習指導要領の改訂の趣旨になっているということです。

そういった点からまず内容のところでは、東京書籍がつかむ、調べる、まとめる、いかすという学習の段階を踏んでいるのと、また、まとめるという中に振り返ろうという活動を設定していたり、社会的事象の見方、考え方として広がりや時間という視点や、関係付ける、比べる等の考え方を示したり、活用のポイントをわかりやすく表現したりしているところは、今度の改訂学習指導要領にのっとなって非常に工夫されているなということがすごく感じ取れました。また学び方コーナーなども設置して、さまざまな学習の活動の報告を紹介しているのもよい点ではないかなと思います。

ほかの教科書がしていないわけではなくて、日本文教出版は私たちの学びを生かそうという形で設定して、いろいろ考えたり、教科書の使い方コーナーで、見開きで教科書の使い方を細かく書いてあるので、非常によろしいと感じました。

その中で、そういった工夫は、東京書籍が一つ上にあるのかなと感じました。

そして教科書の構成なのですけれども、先ほど小林委員からも意見が出ましたように、6年生が政治、国際と歴史と2分冊になっているのは、ある意味非常にわかりやすくなっているのではないかなと思います。

あと今のデジタル教材についてですけれども、QRコードを使っているいろいろと見られるような形と、東京書籍はQRコードとDマークを開くといろいろと情報が得られるような工夫がされています。日本文教出版は残念なことにQRコードではなく、ホームページアドレスの紹介というのが、今回デジタル化を進めるという意味では、若干マイナスになっているのではないかなと感じました。

それと社会科なのでやはり諸外国、北方領土や竹島、尖閣諸島は常に話題に上がりますけれども、それについての記載につきましては、やや教育出版が多く取り上げているような感はあります。ただ内容を見ますと、多少細かい表現が若干違うところがございしますが、それぞれの教科書において、正確に物事が書かれているのではないかということで、この点についてはどちらの教科書がよかったとか悪いとかという形ではなかったと思います。

また学習指導要領の中にありました災害に関するものについては、各社ともしっかりと書かれておりました。そういう観点から見ますと、私は今回は、東京書籍の教科書が若干いろいろと工夫がされていて、非常に勉強しやすい教科書で、なおかつ指導しやすい教科書になっているのではないかなということで、私は東京書籍を第一に推薦したいと考えております。

以上です。

ほかに各委員からご発言はございませんでしょうか。

今回は全体的に東京書籍というご意見が強いようです。各委員とも、社会については東京書籍でよろしいでしょうか。

特にご意見がありませんので、それでは、ただいまの協議の結果、社会については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

渡邊委員

ご異議ございませんので、社会については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、次に地図について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

地図なのですけれども、2社ということで比較をしてみました。じっくりと見てみますと、地図というのは活字をたくさん使っていて、小さい駅名から主要な駅名は大きくとか県名は太くとか、たくさんの文字を地図上に美しく読みやすく配置する工夫というのはすごく大変なものなのだなということを改めて感じるのですが、そういった点について、やはり帝国書院のものは大変見やすい。よく見てみると、今申し上げた活字の組み合わせですとか色合いですとか、さまざまなことをわかりやすく配置してくださっているのですね。もちろんユニバーサルデザインフォントが各社とも使われていて、そういったことの上に立っても、非常に見やすいということがあります。

それと私が注目いたしましたのは、ほかに2点ありまして、学習上の広がりということ考えたときに、社会科の学びにつながるようなちょっとしたコラムが、帝国書院のものにはたくさん入っておりまして、各地域の特徴ですとか、それがどんなふう暮らしにつながっているのかなど考えを広げられるようになっていました。また防災マップづくりというところでも、洪水への備えについて、環七の地下貯水池が出ていたり、単に地図ということではなくて、地理的な考え方とかものの見方、生活とのつながりというところでの橋渡しが上手だなということに注目しました。

それと、もう一つ注目したのは、私は心理学が専門でございまして、意外と地図が読めないという方が大人になっても多いということで、子どもにとっても立体的な、暮らしている町が平面になったという、3次元の世界を2次元にするというところで、想像力がなかなか追いつかなかったり、理解しにくかったりということがあると思います。帝国書院の方は地図って何だろうというところから始まっておりまして、単にその説明がこういった記号から成り立つものなんだよということだけでなく、とても感心しましたのは、教科書に掲載されているQRコードでデジタル教材につなげますと、もちろん地図帳に写真もあるのですが、真横から見ているふだんの目線から見ている学校が、だんだん上空の方

ヘドローンのように視点を移したときに、地図と同じような形になっていくのだというよ
うな、子どもの目線で見たと3次元のものが、上から見るとこうなっていて、地図になっ
ているのだよというところがとてもわかりやすく、似たような説明や真上から見ると地
図になるよという言葉は、東京書籍にも出てくるのですけれども、やはりそれだけではな
く、写真や動画を添えて、横から見たものが、鳥のようにして上に行くと地図になるとい
うことがとても丁寧に説明されていて、そういったところからも理解しやすく、地図とい
うものの価値が伝わるのが帝国書院ではないかなと思いましたので、帝国書院がよろしい
かと思いました。

以上です。

渡邊委員

ありがとうございました。

次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

私も今回の教科書では3年生から配付になることから、この導入部のところに注目しま
した。

両社ともいろいろ工夫が見られたのですけれども、私は、今、伊藤委員が話されたのと
は逆に東京書籍の導入部が、なかなか子どもにとってわかりやすいのかなと感じて、ここ
の部分は東京書籍が少しいいなと思ったのですけれども、地図なので一番基本になる地図
がどういうふうに見えるかという点で見ると、活字とか色とか含めてやはり帝国書院の方
が、かなり見やすさという点では優れていると思いました。

それともう1点、都市部の洪水への備えで中野区が出ていることは、中野の児童にとっ
て身近な題材があるということで、こういった意味からも帝国書院の教科書を推したいな
と思います。

以上です。

渡邊委員

ありがとうございました。

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

それでは、私からの話を進めさせていただきたいと思います。

地図帳は2社ということで、それぞれの特徴を見比べてみました。確かに地図の見やす

さという点では、帝国書院のものが非常に明確であるかなと思うのですが、どうもこういったものは見慣れているとか、さまざまな視点があるかと思います。インターネット上とかスマートフォン上でも、例えばA社の地図とB社の地図がどうなのかというと、見慣れている方が見やすくなっていくということもあるかと思います。そういう点では、教える教師も長年使っているということの優位性というのは、否めないのかなと思うのですが、さまざまなものに触れていろいろと慣れ親しんでいくと。そういう点で今、田中委員も言われましたが、斜めから見て上から見てというのは、東京書籍の最初の部分、7ページから9ページに関しては、かなりワイドにその辺のところが見やすくなっていると思います。

それから選定調査委員会の報告からも、これは一長一短あるのでしょうけれども、東京書籍の場合には、情報量が詰まっている感じがするとありました。でも考えようによっては、情報量が多くていい、逆に詰まっていて見にくい、両方あろうかと思いますが、その辺をどう見るかということです。

ただ地図の海の深さや、全体の鳥瞰図的な見方というのは、東京書籍もしっかりとよくできています。後半の資料の部分も、歴史との関連性とかそういったものも含めると、かなり豊富で充実しているというのは、東京書籍の一つの特徴なのかなとも思います。

そういう点で非常に僅差ですけども、私はあえて東京書籍がいいかなという結論に達したところであります。

以上です。

渡邊委員

ありがとうございました。

最後に私の意見を述べさせていただきたいと思います。先ほどから各委員が言われているように今回二つの教科書なので、じっくりと見比べることができました。

その中でいろいろと特徴をという形で考えたのですが、やはりその中では日本の国土・領海・領空、排他的経済水域等の日本の範囲の示し方は、帝国書院の方が少しわかりやすく示されているのではないかなと思いました。

見開きの地球儀については、東京書籍の方が見やすいと思いました。地図ですから見慣れる見慣れないというものもあると思うのですが、その中で自分たちの地域ということで、まず地図に興味を持ったら一番最初に、中野区はどこにあるのかなと子どもたちならば見るのではないかなと思いました。

そのページは2社共にあるのですが、どちらもぎりぎりで中野区は切れてしまう

のですが、中野区がより多くページの中に入っているのは、帝国書院でした。そのページに関しては、非常に似た構成になっているのですけれども、縦に見るか横に見るかという地図の形で、そういう意味では大して差はないのですが、それぞれの地域におけるランドマークを記載してある。非常にわかりやすくなっているのですけれども、中野のランドマークである中野サンプラザは、帝国書院にしか載っていなかったのも、やはり少し心動かされる内容になっております。

そのページにおいて、どちらが見やすいかというと、内容はほぼ同じで字の大きさその他等もあるので、帝国書院の方が見なれている感覚のためか、地図の色合い、その他等が若干わかりやすいように私は感じております。

私としては今回につきましては、地図については帝国書院の方を推させていただきたいと考えました。

以上です。

ほかに各委員からご発言はございませんでしょうか。

ないようでしたら全体的に今回は、帝国書院のご意見が強いようではございますけれども、地図については帝国書院でよろしいでしょうか。

ただいまの協議の結果、地図については帝国書院を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

渡邊委員

ご異議ございませんので、地図については帝国書院を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、社会及び地図の協議は終了しましたので、教育長は入室してください。

(入野教育長 入室)

渡邊委員

ただいま教育長が着席しましたので、会議の進行を教育長へ引き継ぎいたします。

よろしく願いいたします。

入野教育長

それでは、引き続き私が会議の進行を行います。

ここで会議を休憩いたします。

午後 7 時 3 0 分休憩

午後7時35分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

次に算数について協議を行います。机上の教科書の入れ替えを行いますので、ここで会議を休憩いたします。

午後7時38分休憩

午後7時47分再開

入野教育長

それでは会議を再開いたします。

算数について協議を行います。

まず渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

算数は6社ありまして、それぞれの教科書の特徴をつかむのが非常に大変でした。その中で算数ということなので、やはり問題解決していくためにどういう工夫がされているかなということを見ると、問いを投げかけ、考えさせるという形で、東京書籍の方が構成されていて、非常にそれについてはわかりやすかったのではないかなと思います。

ただ教育出版社も、問いかけによって学習を進めていくような形になっていますし、日本文教出版も、単元の導入が見開きで構成されたり、非常にわかりやすい、各社それぞれの工夫がされているところであります。

また表現に関しても、教育出版社は4コマ漫画を用いて単元のまとめをするなど、また日本文教出版はイラストや図によつて的確に問題を解決できるようにしているところがよかったですのではないかと思います。

大日本図書においても、さまざまな場面で使えるような見方、考え方とか、いろいろとひらめきアイテムというものを設定して考えていたり、非常にそれぞれの教科書ともに工夫されていました。

その中でどういうふうに教科書を選んでいくのかということで、デジタル教材についても確認したのですが、それぞれに大きな差がないように思われました。

それぞれの今度は東京都の資料も確認しまして、総括で見ますと、各単元の領域の分量がどの程度に配分されているのかということをもつと6社で比較してみたところ、ほとんどおおむね同じような構成でつくられておりました。それで各単元における練習問題の数と

ということで、各単元において練習問題を見てみますと、パーセンテージで見ているとわからないのですけれども、全体の数で見ると、問題数としては学校図書と大日本図書が非常に多くなっている傾向にありました。

また、今度は習熟度に応じた問題の取り扱いについてはどうなのかということ、大日本図書は問題数が多かった割には、習熟度に対応した問題数があまり多くない。そういった意味では、教育出版もその点についてはそんなに多くはなかった。あとは日本文教出版については、習熟度に応じた練習問題のページ数というのは、非常に多くとられていました。そういう内容で全体的なバランスのよさということ、啓林館とか東京書籍がバランスのいい配置にはなっていたのではないかと思います。

また学校図書や啓林館は、今回プログラミング教育について取り上げているページが、ほかのところよりも多いというのが特徴であると思われました。

問題と内容の構成、そういった意味からバランスがとれている、そして、子どもたちが教科書で学んでいく上で、自分たちで主体的に取り組みやすい形になっているので、東京書籍が一番工夫されているのではないかなと考えまして、今回は東京書籍を推薦したいと思っております。

入野教育長

ありがとうございました。

次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は今回の算数の一つ選定のポイントとして挙げられている統計的な内容の充実という点でまず見比べてみました。この点においては、大日本図書が取り上げているデータがより身近なもので、児童がこういった身近なデータをもとに統計という考え方を学び、生活に生かすようなそんな力を付けるには非常に適しているのではないかと考えました。表やグラフも大変見やすいように感じました。

もう一つ、数学的活動という意味では、東京書籍が特に知識・技能の定着のところで、「確かめよう・つないでいこう・おもしろ問題にチャレンジしよう」という学習の流れが児童にとってとても整理しやすいというか、勉強しやすい内容ではないかなと思われました。特に1年生のスタートカリキュラムに対応して、教科書に余白が多く、ノート機能を持たせてある点。それから高学年でもノートのつくり方という部分が、児童が勉強する上で大変役に立つ構成ではないかということで、東京書籍と大日本図書という2社を挙げました

けれども、全体としては東京書籍の方が児童にとって使いやすいのではないかと考えました。

それからもう1点、東京書籍については、児童からの意見の中にも見やすいということが、6年生の意見の中にいくつか出ていましたけれども、全体のレイアウトが見やすいという点も推薦の理由にしたいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

私はこの6社の中で、それぞれに特徴が見られると思いますが、啓林館と大日本図書と東京書籍の三つの会社について、いろいろな優位性があるのではないかと感じたところがあります。

結論から言うと、全体的なバランスという点では、どうしても東京書籍が勝っているところなのですが、算数の場合、一般に数と計算、測定、変化と関係、図形などという領域がある中で、図形を苦手とする子どもが非常に多くいるということを考えたときに、これはさまざま、学校によっても学級によっても実態は違うと思うのですが、私は個人的には図形の単元を重視した教科書を、特に思考力・表現力などを考えたときに重視したいなと考えました。そういう点では啓林館が非常に内容的に充実しているのではないかとこの見方をいたしました。

また、啓林館の場合は、プログラミング教育に比較的多くのページ数をあげているということもあります。ただ一方で、習熟度に応じた練習問題に関しては、少なくはないのですけれども、この点はむしろ大日本図書よりも学校図書が多くて、非常に注目したいのですけれども、東京書籍はこの点も非常にバランスよく配置されていると。残念ながら大日本図書に関しては、習熟に関しては少ない状況があると。図形に関しては、優位性は、大日本図書はあるのですけれども、そこのアンバランスが気になるということを感じております。

総じて全体的な教科書の見やすさといったことも非常に大きいと思いますけれども、これも個人や年代の違いがあるかと思いますが、やはりバランスのよさとか見やすさでは、東京書籍の紙面づくりに非常に優位性があるのではないかと感じました。したがって、

私としては最終的には東京書籍または啓林館、この2社あたりを有力にぜひ推したいと思ってるところです。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

それでは次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

算数は6社あってそれぞれいいところがあって、比べるのが大変でした。

何点か注目した点があるのですが、やはりどうしても算数が苦手なお子さんというのが気になってしまうので、つまずきやすい「比」とか「割合」とかいったところですか、ほかの委員もお話しされていたデータの活用というような、今回の学習指導要領で示された主体的な問題解決や、算数を生活に生かしていくというところを、算数の苦手なお子さんでもわかるように、どう表現しているのかという点に注目しました。

各社いいところがあるのですが、例えば日本文教出版は、とても紙面が見やすいなと思って、何について書いてあるのかということが、空白とか、スペースとかもうまくとってあるので、ぱっと見たときにわかりやすくなっていました。算数が苦手なおさんは、教科書で今どこをやっているのかがわからなくなってしまふなんていうこともよくあるのですけれども、そういう点では見やすさと丁寧さという点で、日本文教出版のものはいいなと思いました。

啓林館もやはり伝統があり、とてもしっかりとした紙面構成がされていてバランスがいいなと思ったのですが、見やすさという点では少しどうなのかなというところがあって、むしろ「わかったことをまとめよう」ですとか、資料を自分たちで使って整理していくとか、そういう応用的なところの充実というのが、啓林館のよさかなと思いました。

教育出版は、先ほどお話しし注目しておりました「比」の学習というところが、なかなか力が入っているのではないかなと思っておりまして、簡単などころからかなり応用的なところまで、比については工夫がされていますし、あと「円の面積」なんかもわかりやすいなと思いました。また、統計の学習についても、自分で疑問を感じて平均値を出していくとか、そういったことの意味合いについても、「ただ比べるだけでは変だよ」のような疑問が書いてあったりして、主体的にデータを扱っていくというところでは、よいのかなと思いました。

学校図書もとても見やすい紙面づくりだなと思ったのですが、今申しあげましたような数学的な考え方について考えると、ドリル的なものが多いという感じがしていて、むしろ東京書籍などの方が、考え方というところをしっかりと教えてくれる部分があるのかなと思いました。

データの特徴についてということでは、大日本図書も悪くない感じがあるのですが、やはりデータの扱い方については、先ほどの教育出版と東京書籍がよく、特に東京書籍が一番丁寧に今回の学習指導要領に示された考え方を、教科書のキャラクターが出てきて、それぞれが疑問をぶつけながら、どういう方法が代表値として適切なのだろうということをお話し合っていくとか、数学的な考え方を学ぶ工夫というのが実に丁寧にされているのではないかと思います、主体的な学びというところでは、東京書籍がよいのではないかと思います。

そういう意味では、私としては見やすい日本文教出版、それから割合とか数学的な考え方、発問というところで教育出版、東京書籍なのですが、特に東京書籍の方が主体的な学びのところで優位性があると思いました。あともう一つおもしろいなと思いましたのは、「和算」という日本独特の数学についてのページがありまして、つるかめ算とかのもとなったものだと思うのですが、つるかめ算などについて書いてあったり、世界の数の読み方ということとか、中学校への接続についても6年生になりますと丁寧にされていて、そういう意味で多面的に、多角的に学べるという点もありますので、東京書籍が中でも一番優れているかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を申し上げたいと思います。

何点かに絞って比べてみました。数学的活動が充実しているとか、問題解決型の学習の展開がわかりやすいという意味では、各社相当特徴があり、すばらしいなと思いました。さらに算数という特質からいまして、ICTの部分、プログラミングの部分、それからもう一つはユニバーサルデザインの部分、色覚特性だとか、いろいろなところで配慮されているかなというところも見てみましたが、これについても各社かなり特徴があると同時に、しっかりと取り組んでいるなという印象を持ちました。

特徴が一番出てきていたものが、教科書の構成の仕方でもございまして、それぞれがそれぞれに違い、東京書籍は1年生の上巻をA4版にして分けている。学校図書は6年生を別

冊にして、中学につなげる発展教材をつくっている。この2社が特徴的だったと思いますが、上下巻にどの学年を分けていくか、1冊で全てどの学年もつくっているか等々、それぞれ特徴があったと思います。

私としましては、スタートカリキュラムという部分で、算数についても大事にしていく必要があるなと思いますので、東京書籍。そして、次の中学校への接続ということでは学校図書と思っています。さらに目次等を見てみますと、どの会社も比較的前の学習とのつながりということで、2年生でしたら2年生の上巻ですとか、1年生のときの学習のこれとつながっているということが書かれているのですが、あとの学習とのつながりということで目次に明記しているのが東京書籍でございましたので、そういう面では6年生で見ると、中学校の学習につながっていくよというのが目次にも表われていて、それはいいかなと思いました。

そして教科書を並べてみますと、ネーミングがいろいろ見えてきて、子どもたちの意見からも保護者の意見からも、楽しく学べるというような、ちょっと楽しくとか、ちょっとときめくようなという意見もありましたのですが、それを見ていくと東京書籍のこのネーミングもすごく学習の狙いを捉えていて、なおかつちょっと楽しくという部分が出てくるかなという思いを持ちました。

さらに本区が力を入れております習熟度別少人数指導については、区の教員もつけて充実しているという面からも見てみますと、日本文教出版ですとか東京書籍、さらに学校図書が割と考慮しているかなと思いました。

いろいろ委員の皆様がおっしゃったこと等々も併せて自分でも研究をした部分、特に2年生の九九のところをどのように教えているかなというところでの学習の仕方を各社比べてみますと、私としては東京書籍、学校図書かなと思いましたので、その二つにしたいかなと思っております。

ほかに各委員からご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今、ご意見を聞いてみましたところ、協議の結果算数については、東京書籍、啓林館、教育出版、大日本図書等が挙がりましたけれども、ご意見が多かったのは東京書籍ではなかったかと思います。

東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、算数につきましては、東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

ここで会議を休憩いたします。

午後 8 時 0 7 分休憩

午後 8 時 0 9 分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。次回は 8 月 2 日に理科から協議を行います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第 6 回臨時会を閉じます。

ありがとうございました。

午後 8 時 0 9 分閉会